



## 今月の江戸しぐさ 「つかの間つき合い」 10月

江戸時代は世の中をいかに気持ちよく、快適に過ごすかという工夫に満ちた時代でした。（多くの外国人観察者の記録によります。）

「つかの間つき合い」は、例えば初対面で公園のベンチで一緒にいる時に、「ここよろしいですか？ いいお天気ですね」などのほんのつかの間の付き合いであっても、思いやりと優しい言葉で気持ちよく過ごすことの大切さを教えています。

人は、好意をもって接すれば、相手も好意で帰す特性があります。

※ミラー効果と言われています

私達は常に多くの患者、家族、職場の仲間と接していますが根本は人と人の関わりに尽きます。人を心地よい気持ちにさせることのできる人は、自分も心地よく過ごせるものです。

いつもの患者や職場でいつも顔を合わせる人も、直接接する時間はほんの短い時間であることが多いものです。

家庭にあつては、宇宙の時間感覚にすれば、旦那とのお付き合いもつかの間かもしれません。

「つかの間つき合い」をおまじないにすると、優しく人に接する感覚が身に付くかもしれません。また独身の方には、将来の伴侶をみつけるよいきっかけになるかもしれません。どうぞご活用を。

※江戸の人は「八度(やたび)の契り」といわれたように、初対面の相手には八回の約束が守られてからでなければ氏名住所を明かすことはなかったというような、用心深い側面もありました。始めから悪意を持っている人や、危険な人が一定確率で存在するからです。優しく、しかし警戒を怠らぬ気持ちも大切です。

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

6歳までに躰とともに習得すべき事とされていました。

判断の基準は粋かどうかだったようです。

他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。



日本の女性

ロバート フレデリック ブラム

Robert Frederick Blum

(1857~1903)

日本をこよなく愛したアメリカ人画家。

江戸の風情が強く残っていた明治中期に約2年半訪れ、当時の息づかいさえ感じる作品を残してくれました。

